

柵の木からの手紙

2017年 12月号



この夏、緩衝地帯に咲いた4列のヒマワリ跡。隣接する慣行農法の畑には、秋播き小麦が生育しています。

8月上旬に畑にすき込んだヒマワリの太い茎が、4ヶ月程で姿、形が殆ど無くなっています。また、畑一面に作物より元気に生育していた雑草達は何処へ行ってしまったのか？

自然農法の畑は、わざわざ石灰分を施用しなくともpHが6から7の間に保たれている。それに比べて慣行農法の畑は石灰を大量に施用しないと土が酸性化してしまう。残渣物を土と混ぜる事で分解が早まり、次に作物が育つ糧としての「循環の輪」に入っていきます。基本的には、使った分は返して行く。11月中旬、有機質資材の醗酵鶏糞や脱脂糠の散布を行って土に混ぜて雪の冬を迎えます。今年も一年有難う御座いました。来年も皆さんに自然農法農産物をお届け出来る様にゆくりと休んで下さい。土の中には、沢山の生き物がいる。

4日： 満月 :旧暦 10月17日

7日： 大雪

9日： 「 秋の星座 を 見て見よう 」

報徳会館 18時～19時30分

18日： 新月 :旧暦 11月 1日

22日： 冬至

| 12月 師走 | | | | | | |
|--------|----|----|----|----|----|----|
| 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
| | | | | | 1 | 2 |
| 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 |
| 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 |
| 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 |
| 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 |
| 31 | | | | | | |



11月勤労感謝の日に、女満別空港の南に広がる農村地域の町の施設「報徳会館」で「自然農法芋の食べ比べ」を行いました。当初10月末に予定していましたが、2つの台風の影響で仕事の都合が付かなくなった為、農作業が終わりゆったりと活動できる時期に延期しました。

参加者は9名（スタッフ2名・美楽会6名・美幌会1名）でしたが、食育を通じてそれぞれの会が協力開催した形になった事は、これからの活動の幅を拓ける事に繋がると思います。そして、参加者が楽しそうに活動している様子は何よりでした。（昼食後のセミナーは退屈そうでしたが…）

今年は、春から8件の活動を企画実施しました。その多くが、企画倒れでしたが、来期も同様の流れで企画して、農業・食の安全等を社会に伝えて行くつもりです。

皆さんの参加・協力宜しくお願いします。



Yuuji Takahashiさんが岡本 よりたかさんの投稿をシェアしました。

文章： 岡本 よりたか



9月27日・

「草が土へとつながる」

草が土になると言っても、案外信じられないという人が多い。

土と砂は同じものではない。土は過去に生きてきた生物たちの屍が堆積し、土壤動物や微生物によって分解したものが、粘土に付着したものである。

山を見ると枯葉が堆積している。その枯葉はいつまでもそこにあるわけではない。数年という月日を経て、ゆっくりと土に変化していく。植物はそれを栄養として育ていくのである。

だが、根は役割を終えると、僅か3ヶ月ほどで土に還っていく。空気中の枯草菌よりも、土壌中の腐生微生物の方が圧倒的に分解能力が高いからだ。

だから、草を積み上げ、僅かな土を上にかけておくだけで、やがて全てが土になっていく。たった3ヶ月、90日、2160時間の事なのである。

写真は仙台の連続セミナーのもの。4月に全員で草抜きをし、その草を積み上げておいた。根には土がついている。その上に土をもう一度被せる。

7月か8月にはすっかりと土になる。元の土よりも遥かに黒々とした土になる。その土の中には、植物が必要とする必須元素は全て存在する。何故なら、必須元素が揃っているからこそ草となったからだ。

目の前で体験すると、全てを理解する事が出来る。何故、無肥料栽培や自然栽培、自然農法の人たちが草を大事にするのか。その理由は、それが植物を育てるための全ての栄養素を含むからだ。

植物は成長ホルモンで育つ。それは事実であろう。だから、成長ホルモンを出させる事が大切なのは当たり前だ。だが、自然の循環を無視してはいけない。この循環を止めてしまうから、ずっと豊かな土が作れないのだ。

大自然の恵みに感謝する。言葉にするのは簡単だ。だけど、本当に感謝しているのなら、今、あなたが食べるものが、大自然に対して何をしてきた結果のものなのかを考えるべきだ。

生まれてくる草を大切に、落とされた種を大切に、そこに徘徊する虫たちを大切にする栽培。それが次の食べものを生むための絶対条件なのである。

たくさん採れればいい、大きく育てばいい、土なんかどうでもいい、そう考えて作物を作るのは、やがて自然が作り出す命のリレーを止めてしまう行為かもしれない。

草は土へとつながり、そしてまた草へとつながる。その事を忘れてはならない。